令和５年度小松市立稚松小学校　学校評価　１（中間）

めざす児童生徒像

・考える子　　…　主体的に考え、自分の言葉で語り合い、考えをつなぐ児童
・助け合う子　…　自他を尊重し、互いに認めい合い、高め合う児童
・元気な子　　…　健康的で安全な生活を実践する児童

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
（学校で設	自己肯定感の向上		・①②ともに肯定的回答の割合が９０％以上	①	学校は楽しいですか。		95.2%（68.6%+26.4%）	95%（61%+34%）	0	①②ともに全校の平均値は９５％と高い結果となった。校長ビジョンが児童会目標とリンクし、委員会活動の内容が見直されたり、クラブ活動を児童主体の活動にしたりしたことが良い結果につながったと考えられる。 一方で、B評価（26.4%）児童が多いことや、不安を抱える一部の児童がいることも課題である。	今後、「楽しさ」の内容を確認しながら、児童の自己肯定感を高める活動を推進する。具体的には、運動会や150周年記念行事等において、児童が児童が自ら考え、実行する活動を推進する。 また、一人一人の児童の悩みに丁寧に寄り添う組織的な体制を大切にすることや、児童一人一人が学ぶ楽しさや分かる楽しさを実感できる授業に務めていく。
				②	不安なことがあるとき相談する人はいますか。		95.7%				
				集計							

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目						達成状況の分析	改善策
石川県共通重点項目	働き方や業務の改善		・①②の肯定的回答の割合が９０％以上	①	80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	91.7%（25%＋66.7%）				時間外勤務への意識は定着しているが、校務分掌等による個人差が大きい。 教職員一人一人が校務分掌の中で一目標を持ち、取り組むことで②の数値は高い結果となった。	職員会議の電子化や電子会議室等の活用により、日常的な会議時間の削減に取り組む。また、各担当の見通しを持った提案や、校務分掌の偏りについても助言をしていく。
				②	学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100%（45.8%＋54.2%）					

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	①の肯定的な回答の割合が 中間・・・９０％以上 年度末・・・９５％以上	①	研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100%（70.8%＋29.2%）				今年度から物語文の研究となり、模索しながらの日々ではあるが、こまめに部会を開きながらチームで授業づくりに取り組むことができている。研究授業後の整理会も活発に行われているが、一方で、共通実践の取り組み方に悩んでいる教員も少なくない。 発問の工夫や発話量についても、意識を高めていく必要がある。	今後は、講師を招聘し助言をいただきながら、学校研究を進めていく。また共通実践には具体的なものを掲げるようにし、取組状況をふり返ったり共有したりする場を設ける。 CADシートを活用し、発話量への意識を高める。また、物語文の授業や学習の形態に応じた発問の工夫を探っていく。
				②	授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100%（79.2%＋20.8%）					
				③	児童が主体的に学びに向かうための発問を工夫し、発話量を減らしている。	100%（45.8%＋54.2%）					
				集計							
		「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	⑤の肯定的な回答の割合が 中間・・・９０％以上 年度末・・・９５％以上	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	95.8%（41.7%＋54.2%）	95.8%（58.8%＋37%）		0	⑤について、教師・児童ともに肯定的な回答の割合が９０％を上回った。これまでの学校研究で「ふりかえり」に重点をおいて取り組んできた成果といえる。一方で、物語文の授業における「ふりかえり」の視点は、まだ確立していない。教師・児童ともに共通理解を図っていく必要がある。 ②については、ペア・グループ活動や学習用端末を用いた交流活動を積極的に取り入れている。今後は、これらの活動に必要感をもたせ、考えの共有をめざしていくことが課題である。	「ふり返りの視点」を見直し共通理解を進め、ふり返りの時間を確保するようにする。 ペア・グループ活動等については、交流の目的や必要性を明確にし、児童自身が自覚できるようにしていく。また、交流する活動を通してどのような力を育むことを目指すのかを明確にし、自分の考えを深めたり広げたりすることの具体を示していくことを意識していく。
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。	100%（37.5%＋62.5%）	91.3%（61.5%＋29.8%）		-8.7		
				③	児童生徒は、自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表している。	100%（25%＋75%）	88.1%（51.4%＋36.7%）		-11.9		
				④	児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。	100%（33.3%＋66.7%）	90.3%（58.1%＋34.7%）		-9.7		
				⑤	児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり，学びに対する達成感を得られたりしている。	95.8%（33.3%＋62.5%）	92.3%（57.6%＋34.7%）		-0.2		
				⑥	児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	100%（41.7%＋58.3%）	96.5%（80.6%＋15.9%）		-3.5		
				集計							
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	②の肯定的な回答が 中間・・・90%以上 年度末・・・95%以上	①	指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100%（58.3%＋41.7%）				②については全教員が肯定的な回答であった。学校研究の国語科を中心に、教科横断的な視点で、学んだことを使って表現することを意識して取り組んでいる。カリキュラムマップの見直しは夏季休業中に予定しているため、A回答の職員が50%にとどまっていると考えられる。	夏季休業中に各学年ごとにカリキュラムマップを利用して、1学期の振り返りと2学期の計画を行う。また、小中連携の教務部会で学力について情報交換を行い、本校職員と共通理解を行っていく。
				②	児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している。	100%（50%＋50%）					
				③	全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100%（75%＋25%）					
				④	校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）	83.3%（25%＋58.3%）					
				集計							
		家庭学習	①「家で計画を立てて勉強している」②「家庭学習で学習用端末を活用する」80%以上にする。	①	家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	95.8%（54.2%＋41.7%）	86%（58.1%+27.9%）		-9.8	全校集会で学校で学習したことを家庭で繰り返して復習すると良い理由，そのために計画を立てて家庭学習をすることの大切さを話した。その結果，児童の「家で計画を立てて勉強している」の肯定的な評価が86%であった。 学習用端末を家庭学習に活用することを推進し，各学年で家庭学習の課題を工夫することができた。その結果，児童の肯定的な評価が88%にであった。	家庭学習の課題の質や量が個々の児童に適しているかを見直す。特別な支援や配慮を要する児童には，保護者と連携しながら最適な家庭学習の課題を課すことができるようにする。 家庭学習で，週に1回以上学習用端末を活用できるように課題を工夫する必要がある。
				②	学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	95.8%（54.2%＋41.7%）	88.4%（57.6%+29.8%）		-7.4		
				集計							